

第39回 名古屋芸術大学卒業制作展

2012年2月21日[火]— 2月26日[日]
愛知県美術館ギャラリー[愛知芸術文化センター8階]
10:00~18:00(金曜日は20:00、最終日は17:00まで)
[美術学部]美術学科(日本画・洋画・美術文化)[デザイン学部]デザイン学科
[大学院デザイン研究科]

名古屋市民ギャラリー矢田
9:30~19:00(最終日は17:00まで)
[美術学部]美術学科(彫塑・立体造形・ガラス・陶芸・アートクリエイター・版画)
[デザイン学部]デザイン学科

名古屋芸術大学 西キャンパス[アート&デザインセンター]
10:00~18:00(最終日は17:00まで)
[美術学部]美術学科(洋画)[デザイン学部]デザイン学科

映像作品上映会[愛知芸術文化センター12階 アートスペースD]
2月25日[土]14:00~20:00
2月26日[日]10:00~17:00

第16回 名古屋芸術大学大学院修了制作展

2012年2月28日[火]— 3月4日[日]
名古屋市民ギャラリー矢田
9:30~19:00(最終日は17:00まで)
[美術研究科・デザイン研究科]



卒業制作展記念講演会
特別対談
絹谷幸二×仲居宏二
「アート」の匙加減

2012年2月25日[土]14:00~16:00
愛知芸術文化センター12階アートスペースA

※申し込みは終了しました。

Open 12:15~18:00(最終日は17:00まで)日曜・祝日休館
スケジュールは変更になる場合がありますので、ご確認ください。

- 2/21 四 → 2/26 日 第39回名古屋芸術大学卒業制作展
3/23 金 → 4/11 日 デザイン学部レヴュー選抜展
4/13 金 → 4/18 日 梶田君代展
5/11 金 → 5/23 日 2012年度企画展 Bite-Size 日英テキスタイルアート交流展
5/25 金 → 5/30 日 peace nine展 「版画コース・コレクション」展
5/25 金 → 6/6 日 NEW IDEAS IN MEDALLIC SCULPTURE at NUA

名古屋芸術大学 Art & Design Center
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 TEL[0568]24-0325 FAX[0568]24-2897

Ble Vol.33
発行日 2012年2月17日
編集 高橋綾子(美術学部美術文化コース)/猪狩香織(アート&デザインセンター)
発行 名古屋芸術大学アート&デザインセンター
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65番地 E-mail adc@nuac.aic.jp URL http://www.nuac.aic.jp
2012 Printed in Japan © Art & Design Center, Nagoya University of Arts デザイン/印刷 サンメッセ株式会社

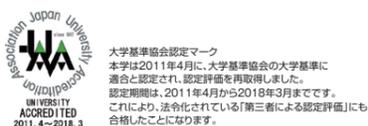


編集後記

昨年春より当センタースタッフとして日々学生と接する中で、密かな楽しみとしているのが名芸生のファッション。それらは気候や用途に合わせるだけでなく表現手段の一つとして等身大の彼らを写し出しています。季節はめぐって本格的な春もすぐそこ。果立っていく卒業生や期待に胸を膨らませた新入生も、新たな環境で自分の持ち味を上手に活かしたファッションを楽しんでほしいものです。



最寄りの交通機関をご利用の場合
名鉄大山線(地下鉄線乗り入れ)徳重・名古屋大駅下車西へ約1,000m徒歩15分
※急行一歩急電車の場合は西春駅で普通電車に乗り換えるか下車してください
中部国際空港からも名鉄大山線をご利用ください
西春駅から北西約2,200m徒歩25分、西春駅からはタクシーの便もあります
自動車をご利用の場合
名神一宮インターから10分、名神小牧インターから15分



服をつくるということのなにか、

ミシン、ガスアイロン、人台、どこからでもウール地の匂いが立上る仕事場、父はテーラーの人生を最後の日まで生きた。母は2階で和裁仕立、裁ち板のまわりには織り、染めの絹や綿の反物が積み上がる。糸と針を生業とする家で育った私は生地全般について体で覚えたことになる。30年ほど前の父の死以前はもっぱらスーツを着込んで仕事をしていたのはこんな事情だ。父製のテーラーメイド(注文紳士服)の在庫を着尽くしてから、いつしか服を自分でつくるようになった。この頃、海外に出る事が増えたことも影響して、和洋とりまぜての旅服づくりとなる。寒暖、湿気、内と外、公私への素早い対応を余儀なくされる。よく作るのが日本の労働着系、作務衣などをベースに直線縫いのコート、アジアのゆったりパンツ・サルーン系のボトムである。ミシンワークは直線縫い、細部は手縫いで仕上げる。素材はキモノの絹・麻・綿などの古布、刺し子を使った労働着、刺繍や染めのアジアの布地、慣れ親しんだウール生地、時に役目を終えたシャツ、コタツ掛け、カーテン、浴衣地など何でも使う。旅と服、伝統系ではインドのサリー、そしてプリーツ プリーズを始めとする ISSEY MIYAKE INC. の服、どちらも素材・まとい方の美しさ、着やすさ、かつ畳めば薄い。素材と着方次第で最高の旅服であり日常着でもありと勝手に思う。今の日本の若者服を見てみよう。ファッション用語で言えば、アジアスタイルの

自然派、ダッフルコートのようなトラッドの機能系、インナールック、世界の民族系伝統文様やフリース服、といったレディメイド(既製服)をタイトに、レイアードに、リメイクに、時に古着風に、あるいはレースやファー、ビーズなどのエレメント使いなど、楽しんで着ている。セレクトショップも、自分達のテースト形成には強い味方だろう。しかし、この我儘を許しているのは、モードを長くリードしてきた高級注文服の歴史、つまりオートクチュールそしてプレタポルテ(高級既製服)へ、プロデザイナーの自立とブランド、量産化からトレンドづくり、のみならず、靴、アクセサリ、化粧品メーカーなど一大産業を築くファッション界の基本自由な精神の後押しがあったからだと考えて欲しい。服は必要から生まれる。必要の内容が異なるだけである。私の服、上から下までハンドメイド(手づくり)を基本としている。手間をかけて作られた布地を探し、手間、暇をかけてのんびりと自分の体型に合わせて服をつくる。同じ感覚で一本の糸を布地に変えるニットもよく作る。もちろん私が買いたい服もある。いわゆる定番類、T・ポロなどのシャツやソックス、特殊ミシン・編み機でしか作れない服など、また新素材系、ポリエステル服やアウトドア系の機能服である。こんな服生活を可能にしているのが日本の繊維メーカー、縫製技術産業の先進性にあることを忘れてはならない。須田照子 デザイン学部教授

「私」 My Fashion のファッション

名芸生のおしゃれ事情を調査

名古屋芸術大学は徳重・名古屋芸大駅をはさんで「西キャンパス」に美術学部とデザイン学部、「東キャンパス」に音楽学部と人間発達学部を配置しています。今回は、「西キャンパス」と「東キャンパス」のファッションの違いを徹底調査！約100人の学生たちから採集した結果をもとに、多数派や特徴的なアイテムを組み合わせたコーディネートをご紹介します。



東西キャンパスの 代表的な学生像が 明らかに！



名芸生の足元に注目！

上半分は西キャンパス。下半分は東キャンパスの足元です。西キャンパスでは、靴の種類が多く、スニーカーやサンダル、クロックスといった比較的履きやすいものが多かった。東キャンパスではブーツやパンプスを履く人が多く、足元だけ見ても東西の差が明確に！意外と気を抜かちな足元ですが、靴下との組み合わせで遊んだりバラエティーにとんでいます。

「岡本靖子」展 一衣風俗の観察記一

2011年11月15日[火]～11月21日[月]
名古屋芸術大学 西キャンパス G棟102教室

「岡本靖子」展 一衣風俗の観察記一が、昨年西キャンパスで開催された。この展覧会は、本学美術学部美術文化コースのアート・コミュニケーション選択コースの授業において、学生の手で企画・運営されたものである。展覧会では、1974年から、その時代に生きる人々の日常生活や風俗を観察・採集し記録する「考現学採集」を行っている岡本靖子による、ユニークな「布絵」が展示された。また、これに併わせ学生たちが作家から指導を受け調査した、東西キャンパスのファッションの違いも紹介された。



岡本靖子展会場風景

REVIEW

名古屋市民ギャラリー矢田 開館10周年記念展
大名古屋電脳博覧会
2011年12月21日[水]～12月25日[日]
名古屋市民ギャラリー矢田 第1～7展示室

愛知県内の芸術系5大学のメディア系コースOB、OG、教員、学生等による展示『大名古屋電脳博覧会』が、名古屋市民ギャラリー矢田で開催された。内容はインフォームドコンセント支援などの生活の具体的な場面に即したメディアデザインの提案や、ゲーム、テレビ番組、iPhoneアプリなどを媒介としたエンターテインメント、アートアニメーション、劇場用映画、メディア・インスタレーションなど多岐にわたる。中でも私が特に興味を抱いたのは、2つの試みだった。



高橋昂也「VESSELS」



伊藤明倫「瞬きの中、瞬きの外」(撮影 株式会社BADGE)

伊藤明倫は、液晶モニターから発せられる光の明滅で、壁面に貼られた野鳥の写真を照らし出す。液晶モニターは単に光を出しているのではなく「海上の波に反射する光」という具体的な光景の映像となっている。他方、高橋昂也のアニメーションは文明の生成と崩壊のプロセスを象徴的な物語(フィクション)に翻訳して上映している。伊藤が自然界の中で光によってものが見えることをメディア構造の中で再定義しようとするのに対して、高橋は人類が多様な文明の中で築いてきた自然との関係のあり方を現代人に思いさせようとする。共時的な視野と、通時的な視野の違いはあるが、双方とも人間と環境とテクノロジーの関係を再考しようとする点では共通している。偶然にもこれらのアプローチは、2011年に発生したいくつかの象徴的な出来事と符合するような気がした。

津田佳紀 デザイン学部准教授
※東日本大震災とそれに端を発する放射能汚染事故/ニュートリノが超光速で飛行したという国際共同実験OPERAグループによる実験結果

あいちトリエンナーレ地域展開事業 あいちアートプログラム
展覧会 高木正勝 in あゆち
2011年12月3日[土]～12月25日[日]
文化フォーラム春日井・交流アトリウム



「うたづくり」ワークショップ風景

美術文化コース2年生の授業「プロジェクト研究」では、事業(プロジェクト)運営に関する基礎知識と実務を習得することを目的とし、地域の文化施設との連携によって、学生による実践的なスタッフワークの機会を設定している。

今年度は、文化フォーラム春日井での高木正勝さんの映像展示と音楽ワークショップの企画運営に参加する機会を得た。実は高木さんとはご縁があって、一昨年のピアノコンサート『Ymene(イメネ)』でもスタッフワークを組織した。若くて柔軟で、何よりも才能豊かなアーティストと接する機会は貴重。学生たちは、わくわく、ドキドキ…そして緊張感と責任感をもって参加した。

「あゆち」は、かすがい市民文化財団の若いスタッフたちが、場とアーティストに真摯に向き合って紡ぎ出した企画。運営のための様々なプロセスを、学生たちにも共有させてもらい、時に「ひょうたんからコマ」のような驚きを実感した。高木さんの正直な態度に共感したり、参加してくれた子どもたちの笑顔に励まされたり…

12月24日25日に行なわれた「うたづくり」のワークショップは、高木さんが子どもたちに「絵を描くように音楽をつくる」極意を伝授。ミニコンサートのごとく演奏もあり、子どもたちの「音」が「音楽」になる瞬間に感動したりと、まさに贅沢な時間が流れた。

「子どもたちを見守って、寄り添って」と促した高木さん。学生たちは、アーティストの間にあるべき、スタッフの立ち位置と存在の意味を見いだしたに違いない。

高橋綾子 美術学部准教授



NIGHTプログラム おひさまずんで 会場風景

ART WORDS FROM THE ART WORLD

芸術一話 第9話 もっと幅広い関心を



「棟方志功展」会場風景

愛知県美術館 館長
村田眞宏
Masahiro MURATA

美術館の学芸員として、芸術系大学の学生の皆さんのことで、以前から少し気になることがあります。それは、皆さんの美術や芸術についての興味や関心が限定されてしまっているのではないかとことです。かなり以前のことで、名古屋芸術大学で博物館学に関する授業でお話をする機会がありました。その時、愛知県美術館への来館の有無をおたずねしたところ、その少なさにショックを受けたことがありました。友人や先輩、身近な先生方の展覧会、そして自分の好きな作家の展覧会ぐらいは行けれど、あとはほとんど…といったことはありませんか。昨夏、当館で開催した「棟方志功展」では5万人を超える入場者がありました。高校・大学生は600人余りで、全

体のわずか1.2パーセントでした。ヴェネツィア・ビエンナーレなどで受賞し、国際的にも高く評価されてきた作家の決定版ともいえる展覧会が身近なところで開催されているのに、それを観ないでいるというのはあまりにもったいないでしょう。

現代に生きる皆さんが、今という時代、そして同世代や身近な仲間たちの表現活動に惹かれるのは当然ですが、美術・芸術に関係する分野に身を置いているのであれば、もう少し広く関心をもつようにしたほうが、得るものは多いし、制作や研究にも有用なものだと思います。大学の卒業で8階ギャラリーに来館されたときには、10階の美術館の展覧会にも、ぜひ足を運んでみてください。